第14号 秋季

コクレオてらす

写真:夏のビジョンミーティング

ともにつくる学びの場

近江 佳代子

長男が小1の2学期にこどもの森に転入し、この9月でコクレオの森と出会ってちょうど7年となります。今は長男が中学部、長女が小学部に通い、私は理事としても関わらせていただいています。
私は25年前にニュージーランドで半年間ボランティアティーチャーをして初めて他国の初等教育に触れ、「良い教育」って何?が私の大事なテーマになりました。結局、子どもの時の学びとして本当に必要なのは「学ぶことは楽しい」と知ることではないかと思っています。
では、その学びを「楽しい」と感じるためには何が必要でしょうか。私は、まずは基礎体力としての基礎学習、そして、自分で考え、手を動かす主体性、対話によってともにつくる学びの時間、新しい出会いや気づきによる知的感動体験ではないかと考えています。
新しい学校をつくる動きが本格化してきている今、改めて、コクレオの森の中心である学校事業が提供する「教育」について、今夏のビジョンミーティングの後半で話し合いました。
昨年のビジョンミーティングでの成果物であるコクレオの森のWhy(存在目的)「私を生きる人が増える」、What(提供価値)「自分も人も大切にすること」、How(あり方・方法)「信頼・対等・対話」、これを共通認識として持っている組織が、それを礎にして提供できる教育は、きっと様々な方法で「学びの楽しさ」を実現し、可能性を広げることができると思います。なぜなら、「良い」の定義も「教育」に対する思いも、時に食い違ったり、対立したりして、模索と挑戦が続いていくもので、そこにはビジョンを持ちながら丁寧に対話をして、「ともにつくる」ことが必要だからです。
今、日本の各地に様々な新しい学校ができつつありますが、コクレオの森のこのビジョンが礎として「当然ある」学校はまだそう多くないでしょう。この強みを認識し、広げていくための新たな一歩を踏み出せたことが嬉しいです。

こどもの森

多様な人と、ともにいる

学校生活を送っていると、子どもたちの間で喧嘩があったり、暴言が出たり、時には手が出てしまうこともあります。今学期は振り返ると「多様な人とともにいること」に向き合った1学期でした。トラブルが起こる度に個別の話し合いをしたり、全校集会や各クラス集会で「暴言・暴力について どうしたらいいか」の話し合いをしました。「ともに生きるワークショップ」を開いたり、保護者の人とも特別な懇談の機会を設けて話し合ってきました。
喧嘩が起こったりする不和な状態では、スタッフもエネルギーを使い、精神的にも負担があります。これはスタッフだけでなく、子ども本人も、それを見守る保護者の人も同じだと思います。
そのような状態にあると、つい誰かのせいにしてしまいたくなります。誰かを加害者として、自分を被害者としてしまえば悪い相手が変わるか、いなくなれば問題は解決されるからです。ですが、そのような誰かがいなくなることで生まれる平和とは、本当の平和なのでしょうか。
大切なことは、しんどい思いとも、ともにいられるように自分自身が深い根を張っていくことだと思います。身近な人の力を借りながら、深く自分自身の内面を見つめ、自分の中にどんな感覚があるのかに気づくこと。そして、ゆっくりと時間をかけてそんな自分を許していくこと。他者を見つめる眼差しは、そのまま自分を見つめる眼差しにもなります。受け入れられない相手を受け入れられるようになることは、自分自身の受容を深め、器を広げていくことに繋がります。
こどもの森の子どもたちも、今学期を通して器を広げる成長をしたように感じました。会う度に喧嘩していた人たちが一緒に遊んでいる姿が増えました。喧嘩を見守る眼差しもあたたかいものに変わってきています。僕たち大人も成長させてもらいました。それぞれが深く根を張ったこの森なら、これから先どんなことがあっても、きっと大丈夫だと信じています。(矢吹 卓也)

こそだての森

月イチのお楽しみ、子育てカフェ

子育てカフェ10周年の今年度は、リアルでの子育てカフェが復活しています。平日の水曜日から、土曜日10時～にお引越しして、ご参加しやすい形での新体制です。さらに、今回からボランティアの方に保育をお願いしており、万全の態勢です。やはり、リアル開催の良さを初回から感じています。オンラインでの子育てBARの方も好評を頂き、2年目になります。引き続き木曜日の20時から開催しています。

4月は子育てで一番大切なこと、「自己肯定感」についてのお話
5月は甘えと甘やかしの違いについて、6月は子どもの話を聴こう！
7月は4月から6月までの学びの振り返りをし、参加者の方と語りあうお話会を新しく企画しました。

参加者の方からは、
「毎回子育てカフェが楽しみで、自分が元気になれた。自分を受け止めてもらえる場所って大事だと思う。」
「自分の持っているこだわりや価値観に気づくことができた。」
「ここでは、『聴いてもらう』ことができて、みんなの考えや言葉を聞けて、一人で抱え込むことなく、救われる場となっている。」
「わたし自身のBeingが受け入れられるようになることが大事だとわかってきたので、少しずつできるようになりたい。」

素敵なご感想を頂き、こちらがお伝えしたい想いを受け取ってもらえていることが大きな喜びです。せっかく縁あって親子になれたのですから、ハッピーな関係、ハッピーな時間を過ごしたいですよね。少しでもお役に立てればと思います。ご期待ください。
※ 詳細はP4のインフォメーションをご覧ください。(植木 尚美)

トピック！

『完成しました！ “中学部の新しい学び場”』

前号のコクレオてらす13号で、いよいよ着工とお伝えしていた、箕面こどもの森学園中学部の「中学生たちが考えた新たな学び場を実現したいプロジェクト」。5月18日、19日の2日間で、無事に着工し、予定していた工程を終え、ついに完成を迎えました！中学部の校舎内に、素敵なロフト付きの学習スペース、たくさんの本を収納できる棚、のんびり過ごせるウッドテラスができました。
この2日間で嬉しかったことは、やはりたくさんの人が協力に来てくれたことです。クラウドファンディングに寄付を頂いた方はもちろん、プロジェクトメンバー以外の中学部の人たち、スタッフ、保護者やそのご家族、卒業生、などなど、暑い中でも、雨の中でも、一緒に汗を流してくださいました。
プロジェクトの時間は、自分の好きや興味を、学びに繋げることのできる時間だと思っています。どんな学びになるかは人それぞれ。今持っているものを深めて究めることもあれば、新たな知識や情報と出会うこともある。自分一人でやり遂げることもあれば、周りの人と協力したり、頼ったりする経験をすることもあります。今回のこのプロジェクトの時間が、それぞれの人の中でどんな意味を持ち、どんな学びに繋がっているのか。これからの日々をよく観察しながら、一人ひとりの変化を楽しみにしたいと思います。(藤丸 浩志)

保護者より

『自立へのステップ』

元々自立心が強く、自分の身の周りのことに関してああしたい、こうしたいという思いが強い子どもでしたが、入学して1ヶ月もしないうちに「ママの全てがイライラする」の一言…私のやることなすこと気に入らない様子で、こんなにも早く反抗期が訪れるなんて、と最初は戸惑うばかりでした。少し提案したつもりでも「勝手に決めないで」「ママの問題じゃないでしょ」と少しも受け入れようとしない態度には、こんなに頑なで大丈夫だろうか、と心配になることも。でも一方で、急速に自立への道を進んでいる姿には目を見張るものがあります。
子ども時代はまず自分を大切にできる人に育ってほしいと願って子育てしてきましたが、子どもの強さとたくましさは想像以上で、日々圧倒される程です。とはいえまだまだ甘えたい時間もあり、親としては振り回されているような気にもなりますが、貴重な時間を大切にしなければと思う毎日です。これからの小学校生活を通して同じくらい人も大切にできるよう、自分なりのバランスを見つけられる人に育っていってほしいと思っているし、そんな大切だけど難しいことを模索し続ける仲間たちと日々を送れることに感謝しています。
これから様々な経験を通して色々な感情を味わいながら、たくさんの希望が芽生えますように。近くでそっと見守っていきたいと思っています。(西岡 香菜子)

おとなの森

私のManabee愛～「ど真ん中」を共有したい～

私がManabeeを受講したのは4年前。当時は公立小学校の悩める教員で、Manabeeで学んだことが本当に役に立ちました。その後、こどもの森のスタッフとなり、どっぷり漬かって3年半。その間も我が子は公立学校に通い、公教育に関わる先生たちを応援する活動にも参加しています。現役教員時代から、現在の一般的な教育現場について、「ちぐはぐさ」のようなものを感じています。
例えば..

- ○「自己肯定感」というものが大切なんだ、という意見に対して異を唱える人は少ないけれど、その理解はあいまいで、結局、自己肯定感が損なわれるアプローチが行われている。
- ○「自分の頭で考えて、責任を取れる大人」になるように求める割には、学校生活の中の多くのことは決められていて、子どもたちが選択できる余地がとても少ない。
- ○「対話」は大事と子どもに言いながら、大人の方が「対話って実際何なのか」わからない。
- ○気候変動について授業で扱いながら、一度しか使わないプラスチックの実験道具が当たり前のように一人に一つ配られて、家に持ち帰られてごみとなっている。

などのような事柄です。「主体的に。対話的に。探究的に。」…そんな言葉はずいぶん広まってきました。それ自体は喜ばしいことだけど、その本質を捉えるのにはコツがいるのか、ズレが起こりやすいようです。
不登校児童数が増加し続けていることも、若者の自殺者数が増え続けていることも、たくさんの人が憂いています。そして、何とかしたいと思っています。
そんな熱い思いがあっても、ほんのちょっと、もしくは盛大に、ズレてしまいます。その影響は、子どもにとっても大人にとっても、結構苦しいのではないでしょうか…。
Manabee 講座の中で扱うのは、そんな「ズレ」を解消する「ど真ん中の芯」です。ズレてしまうのは、誰かが悪いのではなく、ただ知る機会がないだけだから。だからこそ、たくさんの人と「ど真ん中」を共有したいと願います。(個人的には、世の中にたくさんあふれる講座の中で、こんなに「ど真ん中」を扱っている講座は、Manabeeぐらいではないのだろうか！？…そんな熱い愛を持っています。)(塚本 有多香)

ミライの森

どんな教育であれば、住み続けられるまちづくりができるか？～2024夏ビジョンミーティング～

毎年夏に開催しているコクレオの森のビジョンミーティング。昨年度までは会員の方と一緒に開催してきましたが、今回は理事と運営委員、コクレオの森のスタッフのメンバーで、指定管理先の黒川里山センターを利用して行いました。
午前は、「これまでの成果を可視化するワーク」ということで、前回のビジョンミーティングから今までのことを動画を通して振り返り、この1年でどんなことが実現できたのかを確認しました。思い出したり、整理したりと大変な作業でしたが、終わってみるとこの1年でこれだけのことができたんだということや、自分だけでなくいろんな人が関わってやってくれていることなどを実感し、心があたたかくなる時間になりました。
午後からは、「ビジョン」についてのレクチャーがありました。「ビジョンとは誰のためのものでしょうか？ビジョンとは、内部の人にとっては、1人1人の行動指針になるものであるし、外部の人に向けては信用を得るためのブランディングであり、ともにつくるための軸である。良いビジョンとはどちらか一方だけのことを考えるのではなく『内から外に伝わるビジョン』なのではないか」という話がありました。また、今MVVs(Mission・Vision・Values)を改めて考える必要があるタイミングであることも確認しました。これから新しい学校をつくる上で、「私たちが大切にしたいことは何か？」ということをコクレオの森全体や新しい学校の「広報」という面や「教育」という面からも考えていく必要があり、現在の箕面こどもの森学園と新しい学校の二つともを念頭に置きながら、「どういう教育であれば、住み続けられるまちづくりができるのか？」ということを考えてみました。
コクレオの森は4つの森事業をやっていますが、やはり中心は箕面こどもの森学園の学校事業です。それがあるから、他のおとなの森やこそだての森、ミライの森の価値が光ります。このタイミングで改めて中心である教育について考えられて良かったですし、今後も多様な人と考え、試し続けられるようでありたいと思います。箕面こどもの森学園においても新しい学校においても気づきが得られる時間となりました。(矢吹 卓也)

黒川里山センターより

里山スクール風・泉の日々

里山センター HP

川西市黒川地区にある黒川里山センターをコクレオの森が、指定管理をするようになって、2年目となりました。黒川里山センターでは、里山の魅力を発信するイベントを行っていて、そのうちの一つとして里山スクールという平日の子どもの居場所を開いています。里山スクールには、30名ほどの子が登録をしていて、"日々公立学校に通いつつも、決まった曜日は里山にくる人"、"学校には行かないで、里山だけを自分の通う場所としている人"など、人によって、そのスタイルは様々です。参加したい授業とか行事があるときだけは、学校に行くという人もいます。だからいつも、今日は誰が来るかな〜というのが里山スクールの朝の会話です。

まずはハッピータイムでスタートします。小学生中心の『風』では、午前中は主に自然に触れることを中心に。川に入ったり、火を起こしたり、地域でとれた食材で料理をしたりします。中学生が中心の『泉』は、地域新聞を作ってみたいというみんなの希望で主に地域へ。取材をしながらカフェや映画作り、陶芸や林業に至るまで様々な職業に触れることができました。午後は、『風』も『泉』も自分の"好き"を追求する時間です。折り紙に没頭する人もいれば、木を切る人、ミシンや羊毛に熱中する人も。回数を重ねると、自分のやりたいことが見えてくるようで、早く取り組みたい気持ちから「アトリエは何時から？」と聞かれるようになり、目的を持った時間の過ごし方をしている人が増えました。

里山スクールは、やりたいことは自分で決めます。行くか行かないか、そこから自分で決め、来てから何をするかもその日の自分の決断に任せてOKです。予め誰かが決めたことをやらなければならないということはなく、予め過去の自分が決めておいたことをやらなければならないということもありません。自然がそうであるように、人も、揺らぎ移りゆくもの。その変化を大事にできる場所が、ここなのではないかなと改めて感じています。これからの活動も、自然が見せてくれる今しかない表情と、子どもたちが見せてくれる今しかない移り変わりを楽しみながら、活動していきたいと思います。(井上 香純)

黒川里山センター イベントのご案内

■「ダリアでフラワーアレンジメントを作ろう」
オアシス(生花用スポンジ)に花を挿しますので、
小さなお子さんでも楽しめます。
日時:10月5日(土) ①10時半〜12時 ②13時〜14時半
対象:5歳以上

■「ヨガ、シンギングボウル音浴と地元野菜のスパイスカレーランチ」
シンギングボウルの心地よい音色を聞いてリラックスしましょう。
日時:10月13日(日) 10時〜13時 対象:18歳以上

■「黒川里山マルシェ」
地元野菜の物販や生きもの観察、工作など、
秋の里山を楽しむイベントです。
日時:10月26日(土)10時〜15時 対象:どなたでも

※詳しくは黒川里山センターのホームページをご確認ください。

NPO法人コクレオの森 2024年度 通常総会のご報告

6月15日(土)に2024年度通常総会が開かれました。箕面こどもの森学園をメイン会場とし、今年もオンライン参加が可能な形で開催しました。会員の皆様には総会報告書をメールにて送信しておりますが、すべての議案について承認をいただきました。また、昨年度から川西市黒川里山センター指定管理事業が始まり、コクレオの森にとっては、まちづくりという新しい分野へ。次期の理事、監事は全員再任となり、その後の理事会で代表理事に藤田美保を互選したことをご報告させていただきます。(岡本 智子)

インフォメーション

こそだての森

子育てカフェ&子育てBAR
こどもの森のハッピーアドバイス

シーズン2「幸せな親子関係を育む」

子育てカフェ (土曜の昼/10:00-12:00):10/12、11/9、12/14
子育てBAR(木曜の夜/20:00-22:00):10/17、11/14、12/19

第2回 見方を変えると子どもが変わる
第3回 「対話」から始まる幸せな親子関係
第4回 ○お話会○ 親子で笑顔になる方法

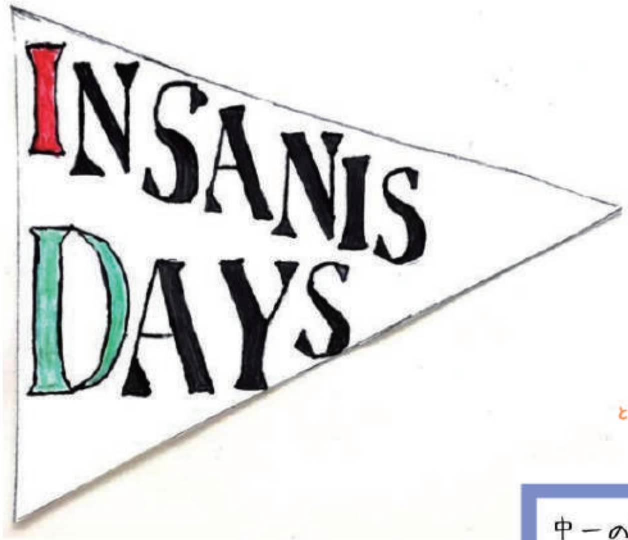
定員:子育てカフェ &子育てBAR/それぞれ20名
参加費:2200円/各回

《編集後記》

2校目設立に向け、大きく動き出した「コクレオの森」。そして改めて「箕面こどもの森学園」の魅力を感じる内容となっている今号の「コクレオてらす」。執筆者の皆様、ご協力ありがとうございました。(郷間)

発行日:2024年9月27日
発行者:認定NPO法人 コクレオの森

〒562-0032大阪府箕面市小野原西6−15−31
TEL&FAX:072−735−7676
メール:info@cokreono-mori.com
URL:https//cokreono-mori.com/

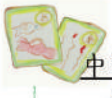


１学期が忙しすぎてインサニスはできないと正直諦めていたのですが、夏休みにも関わらず皆が記事を書いたりイラストを描いたり・・・そんなこんなで今年も続いていますinsanis daysです。今回は新しいメンバー紹介、中学部で流行っていること、夏祭り、研修旅行についてです！

4月に新しく入学した中学1年の中川とあです。インサニスデイズに入ろうと思った理由は、インサニスデイズみたいに記事を書いた事があまりやってなかったので、やってみたいなと思ったのと、文章を書くのも好きだからです。今回は四字熟語カルタのクイズを担当しました！

中一の河野ようこです。一昨年までコドモテラスを製作しており、また記事を書きたいなと思っていたので入りました。最近、フォントを真似して書いたり、文字のレイアウトを考えるのが好きなのでロゴを担当しました！他にも「実行委員から見た夏祭りの裏側」を担当しています。これからもよろしくお願いします！

中学3年の山本とうじです。文鳥のことが好きです。インサニスに入った理由はその時のノリです。ゲームの記事担当しました。よろしくお願いします。



中学部の日常「かるた編」　by　きき

一学期のお昼休みご飯を食べた後、中学部の三階ではほぼ毎日かるたが行われていました！
かるたのことを調べてみると、遊戯や博打に使われる札のことを指し、花札やトランプも「かるた」に含まれます。かるたの語源はポルトガル語の「carta」からきているらしく本来は外国語だったのですが、今は国語化し新聞などでは平仮名でかかれるそう。
ポルトガルからかるたが伝わる前の平安時代、日本にも「貝合せ」という二枚貝を合わせるという似たような遊びがあったらしく、その遊びがかるたと合わさり今の遊び方になったといわれています。百人一首、いろはかるた、など沢山の種類のかるたの中で私たちがいつもしていたものは「四字熟語かるた」と「ことわざかるた」です。
中学部の中でもやり込んでいる人は、読み札を覚えたり、読み始め一瞬で札を取れるようになりました。かるたをしていたらみんなとゲーム感覚で楽しくことを覚えられて、勉強にも役立つとか？！
そこで今回かるたで得た知識でクイズを作成してみました。皆さん全問正解して、中学部の三階メンバーに挑みにきてください！！

部首クイズ　by　きき

一問目　この部首はなんというでしょう
レベル：★☆☆
王　①おうへん　②きみへん　③たまへん

二問目　これらの漢字に共通して入る部首はなんでしょう
レベル：★★☆
友　服　収　役　股
①また　②ゆう　③ぬ

三問目　この部首のなりたちと名前はなんでしょう
レベル：★★★
ネ　①ころもへん　着物を着たえりの形を表す
②しめすへん　かみさまをまつる所を表す
③ねへん　神様に願うことを表す

四字熟語クイズby　とあ

一問目
一生涯に一度会うかどうかわからぬほどの縁。出会いを大切にする意味の四字熟語
①一期一会　②一応一来　③後生一生

二問目
手がかりがつかめず、どのような方針、手段をとっていいか迷うことの意味の四字熟語
①五里霧中　②無我夢中　③暗中模索

三問目
はっきりせず、ぼんやりしている様子をあらわす意味の四字熟語
①有耶無耶　②曖昧模糊　③雲煙模糊

実行委員から見た夏祭りの裏側

byようこ

最初のスクールワークでは新入生に夏祭りについて簡単な説明をして出店を決め、今年はたこせん、ジュースアイス、フルーツ飴、お化け屋敷、一円玉落としなど10個のお店をすることになりました。そして、どの店を準備するかグループ分けをするのですが、ここで問題発生 なんと低学年や新入生ばかりのグループが出てきてしまったのです。ですがみどりさんとけんすけ(中学部の人)が入ってくれたので解決しました。
そして2回目のスクールワークも実行委員からの報告の後各自準備を始めたのですが、またトラブルが…なんと前年度の振り返りがどこにもない!!!その日の昼休みに実行委員総出で探しても見つからないまま3回目のスクールワークへ。ここでも何個かトラブルはありましたがなんとかなりました。
4回目は特にトラブルなく終わり、ついに最後のスクールワーク。実行委員で決めた出店場所を確認し、変える店は変えて、それぞれ最後の準備を始めます。そのとき一円玉落としグループがたこせんグループの場所と変わりたいと言ってきたのですがたこせんグループは猛反対、2グループを交えた話し合いは結局たこせん側が折れるような形になってしまいました。(当日はホールにしてよかったという声もちらほら)

・ついに夏祭り当日!

集合時間は各店で決め、準備ができるようになっていたので集合してから買い出しに行くグループもありました。12:00にホールに集まるので実行委員は少し早く集まり打ち合せ、ルールや流れの確認をしました。そして12:00、全員でルールとスケジュールを共有して夏祭りがスタートしました。おかげさまで大盛況!売り上げは約16万円にもなりました。来てくださった方々ありがとうございました!

・最後に

書き足りない事は多々ありますがこれで終わりたいと思います。最後まで読んでくださりありがとうございました!

今学期のゲーム

byとうじ

僕は、1学期にやった流行ったゲームを紹介します。
まず全体でやったのは、「ダンスゲーム」「ハンカチ落とし」「カタカナ当てゲーム」です。
こんな感じですね。(右の写真)

ハンカチ落としの画像は
見つけることができませんでした

・覚えてる範囲のルール

ダンスゲームのルールはダンスの振りを踊って、それが何の曲か当てるゲームでした。ハンカチ落としは有名なので省きます。カタカナ当てゲームはカタカナの単語を出して、その単語についてカタカナを使わずに説明して周りの人に当ててもらうゲームです。5,6人1チームでタイムアタックみたいな感じでやりました。

次は男子の中で流行ってるゲームです。1番は多分ヴァロラントっていうオンラインゲームです。ルールはむずいので省きます。カードゲームは大富豪などをしていますね。大富豪のルールは数字ごとに強さがあって、それで戦って1番最初に手札がなくなった人の勝ちです。ざっくりしてますがこんなんです。女子は多分カルタが流行ってると思います。カルタの記事をお読みください。

研修旅行

byみどり

中学部では毎年に海外研修旅行に行っているのですが、今年はなんと!行き先を自分たちで決めるというイレギュラーな年になりました。全部一から決める訳ではないですが、いくつかある候補の中で話し合って決めていくという形でした。「行き先を自分たちで決める」という新しいことに関わりたい、関わってみたいという意思のある人たちがメインで、この1学期を通してずっと話し合ってきました。最初にあった行き先候補は台湾、沖縄、カンボジア、マレーシア。そこからフィリピンという選択肢も浮上し、それぞれの場所で、同年代と交流できるあてはあるのか、そこに行く上でのメリットデメリット等様々なことを何度も話し合いました。最後にフィリピンかマレーシアかの2択になって、その時もフィリピン派とマレーシア派のお互いでなぜそこに行きたいのか、そこで何ができるかをたくさん話し合いました。そして、最終的に行き先はマレーシアということで決定しました。この時点で話し合い始めてから2か月は経っています。しかしその後も研修旅行に関する保護者アンケートを実施した際に金銭的な問題で厳しい、過去の研修旅行に関する話を聞いて、そこまでお金をかける価値を見出せない、何故マレーシアなのか説明してほしい等様々なお声を頂きました。前々から今回の研修旅行の費用は高くなりそうだから、少しでも保護者への負担を減らせることができればということで資金グループ(以下CG)という研修旅行の資金のことを考えるグループがあり、アンケートもそのグループが実施しました。CGはずっとお金を集める方法を考えていたのですが、行き先が決定したことにより、「行き先を決定するグループ」が解散し、立ち位置的に一番ふわふわしていたCGでいつのまにか最後に行き先に関することまで話し合っていました。金銭的に厳しいという声がありつつも、説明してほしいという声もあったので説明会を開き、今までの経緯や研修旅行に対する思いなどを話して、もし納得してもらえたら全員でマレーシアに行く、無理だったら全員で行くのは諦めるという賭けのようなことをすることにしました。結果は大成功!了承を得て、皆で行けることが決定しました!
最後まで読んでくださりありがとうございました。

部首クイズ:一問目=③ 二問目=① 三問目=②　四字熟語クイズ:一問目=① 二問目=① 三問目=②